

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	スラッシュ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.043	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：Thrash

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

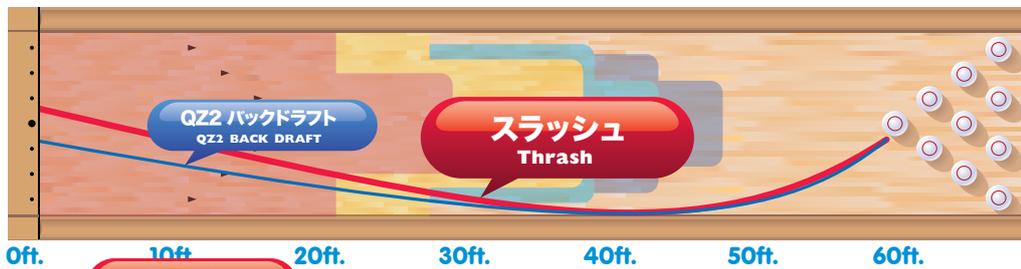
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：QZ2 BACK DRAFT

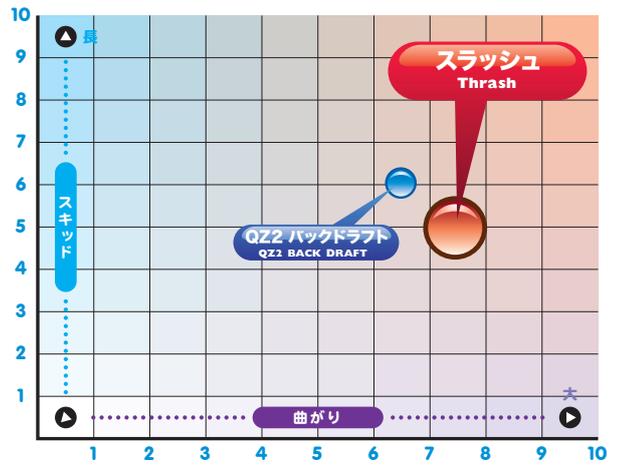
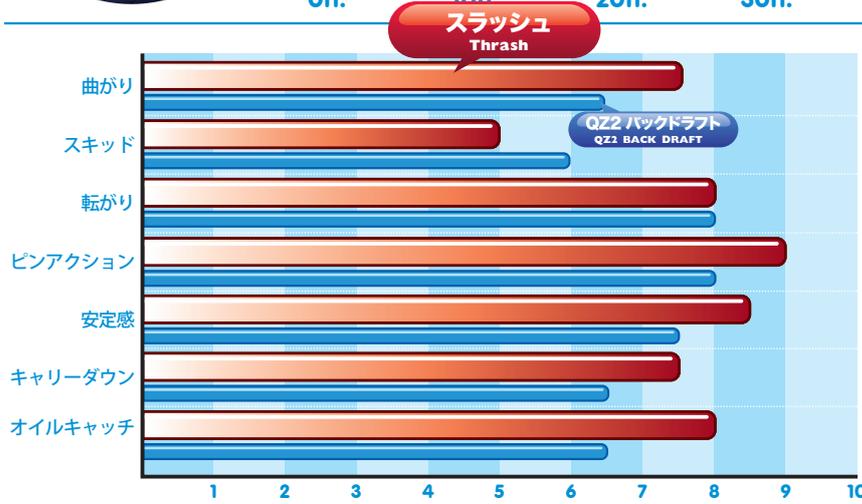
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

時代はMotivatorリアクティブカバーから、Z-MAXリアクティブカバーへ。
 今回リリースするThrashは、QZシリーズの動力源でもあるQuadfireコアを心臓部に、Z-MAXリアクティブという新たに開発されたカバーストックを搭載しています。今までMOTIV社は様々なカバーストックを開発してきましたが、今回採用されたカバーストックはQZシリーズのMotivator-ZリアクティブとクルーエルのFormulaリアクティブのちょうど中間ぐらいに感じました。Motivator-Zリアクティブよりもスキッドは短く、Formulaリアクティブのほうが強い反応を見せます。どちらかというZ-MAXリアクティブはMotivator系のパール素材が主ではなく、Solid系リアクティブの見た目とパフォーマンスが表れているようです。その根拠としてオイルゾーンを抜けてからのドライゾーンでの反応が過敏ではなく、なるべく濃淡を感じさせないように設定されている反応をコンセプトと同時にリアクションとしても感じる事ができるからです。

リアクションイメージはややフック状態が長く感じるフリップ系で、Quadfireコアの持つバックエンドモーションがカバーの特性でやや早めに動き出しているように見取れますが、回転動力は失われずピンヒットまで転がり続けます。ピンヒットの柔らかさはラプターとほぼ同等の低く柔らかいアクションで、特に薄めのアクションは必見です。私はこういう「派手に動かないけれどもボールの回転方向にダイレクト動く」ボールは実用性が多いと思います。オイルがなくなれば過激に向きを変えるボールも必要であれば、過敏に反応しないボールも幅を感じることができるコンディションも多いと思います。コンディションの対応に向き不向きはありますが、ボールの反応も違えばまたラインに向かうイメージも変わることでしょう。そういう場面のためにもこういうボールは持っておくべきだと私は思います。

特記事項

ややキャッチ系Solid系リアクティブでフック状態からのボールの動きが読みやすく、最後まで転がり続ける感じも良い。オイルの濃淡を感じさせにくいボールでコンディションを攻略せよ！